

財 団 概 要

名 称：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
英 字 名 称：The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation
設 立：2007年6月25日
公益財団法人移行日：2011年9月27日
所 轄 行 政 庁：内閣府
設 立 代 表：縄英明
所 在 地：東京都港区六本木6-2-31
役 員 一 覧：理 事 長 佐々木 康行
常務理事 田中 美代子
理 事 青木 庸三
理 事 上村 成彦
理 事 小澤 紀美子
理 事 小松崎 和夫
理 事 菅野 耕自
理 事 高梨 圭二
理 事 馬場 久萬男
理 事 谷村 邦久
監 事 寺尾 仁之
監 事 山田 洋一
評 議 員 池田 延行
評 議 員 稲垣 晴彦
評 議 員 レイモンド・シエルトン
評 議 員 高橋 俊夫
評 議 員 並木 茂夫
評 議 員 柊 巖
評 議 員 堀部 定男
評 議 員 宮林 茂幸
評 議 員 望月 千世子
評 議 員 安井 至
評 議 員 米村 洋一
(2020年7月現在)

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

2019 事業活動報告書

Activity Report 2019

<https://www.cocacola-zaidan.jp/>



この事業活動報告書では、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団が行った、2019年4月～2020年3月までの活動内容を記載しています。

2019事業報告書は下記URLからご覧いただけます。

<https://www.cocacola-zaidan.jp/summary/pdf/ActivityReport2019.pdf>

次世代を担う青少年の育成を目指して

当財団は、2007年6月、「心豊かでたくましい人づくり」を理念とし、コカ・コーラが事業を日本で開始して50周年を迎えることを契機に、財団法人日本コカ・コーラボトラーズ育英会(1970年設立)とコカ・コーラ環境教育財団(1994年設立)を統合し、多様な社会貢献活動を一元的に運営・推進できる母体として設立されました。5年目を迎えた2011年、「公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団」への移行申請を行い、9月27日付けにて内閣総理大臣より認定通知を受け、新たな一歩を踏み出しました。設立以来、次世代を担う青少年の育成と、彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を目的とし、教育分野での事業を中心に継続して実施しております。

「奨学支援事業」においては、1966年の開始以来53年間、大学生への支援を継続し、これまでに2,377人の卒業生を社会に送り出しております。

「コカ・コーラ環境教育賞」は1994年に設立し、以来26年間、2,000団体以上の応募を受け、環境教育・環境保全活動を支援し、日本の環境教育の推進に多大な貢献を果たしております。

「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は2010年にオープンした当財団の象徴的な存在の宿泊型体験施設であり、日本全国から累計で6万人以上の方々にご利用いただいております。

「復興支援事業」としては、震災後9年を経過した「東日本大震災」、震災後3年目となる「熊本地震」、2018年9月に発生した「北海道胆振東部地震」への復興支援のため、支援活動を行っております。2017年からは第2ステージとして、岩手県、宮城県、福島県の高校生を対象に、国際社会で活躍し、地域社会へ貢献する人材を育成するための「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を継続し、「熊本地震」の被災地域、熊本県、大分県の高校生にも同プログラムを継続して行っております。「北海道胆振東部地震」の被災地域3町へは、各々の地域自治体と連携し、教育環境の整備や教育支援活動を行っております。

近年の気候変動、社会情勢の変化、経済不安の中、2019年末より世界各地に広がり続ける新型コロナウイルスは未だ収束が見通せず、人々の生活や社会は不安や混乱の中、新たな価値観を創出しようとしています。

私ども「コカ・コーラ教育・環境財団」も、“新たな常態”の中、持続可能な社会の実現を目指し、社会の変化、価値の変化に即した事業を企画・提供することにより、これからも国際社会が求める青少年の育成と彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成に貢献してまいりたいと考えております。



公益財団法人
コカ・コーラ教育・環境財団
理事長

佐々木 康行

< 理 念 > 心豊かでたくましい人づくり
(Healthy Active Life)

参加者累計30万人以上	
環境教育	奨学支援
地域社会、さらには国際社会において次世代リーダーとなる人材育成の支援を行っています。	次世代を担う青少年の育成を目的に、高校生に大学生活への奨学支援を行っています。
●コカ・コーラ環境教育賞 1994年から26年間の応募団体 累計 2,326団体	●1966年から53年間の卒業生累計 2,377人
●雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス 2010年から9年間の利用者 累計 約6万人以上	復興支援
スポーツ教育	東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震の被災地支援を目的に、コカ・コーラ復興支援基金を設立。さまざまな事業を行います。
青少年を対象に、次世代の育成と指導者育成	●太陽光発電・蓄電設備の設置助成 設置校累計 55校
●コカ・コーラ出前かけっこ教室/出前体育の授業などで2009年から9年間の参加者 累計 7,363人	●ヤングアメリカンズ東北ツアー協賛 参加者累計 3,100人以上
	●スクールバスの寄贈 5台
	●米国・英国でのホームステイ研修 参加者累計 333人
	●英語コミュニケーション・スキルプログラム 参加者累計 1,431人

2019年度も当財団は
日本全国で活動を展開

2019年	
4月	1日：奨学支援事業 2018年度奨学生51人を採用 23日：「第26回コカ・コーラ環境教育賞」の募集開始 26日：「い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト」前期助成を23団体に実施
6月	28日：内閣府へ2018年度事業報告書及び収支決算書を提出
7月	4日：「第26回コカ・コーラ環境教育賞」の第一次選考会にてノミネート15団体を決定 22日：奨学支援事業 各地の高等学校及び教育委員会に奨学生募集ポスター及び募集案内を送付 27～28日：熊本県立東陵高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
8月	23～25日：「コカ・コーラ環境フォーラム」をコカ・コーラ環境ハウスにて開催。 「第26回コカ・コーラ環境教育賞」の最終選考会にて最優秀賞及び優秀賞団体を決定、表彰式を実施 29～30日：東京学芸大学環境教育研究センター「水辺の学びデザインプロジェクト」研修合宿を コカ・コーラ環境ハウスを拠点に実施 31日～9月1日：岩手県立久慈高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
9月	1日：奨学支援事業 奨学生の応募開始 14～15日：岩手県立花巻北高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 26～27日：宮城県佐沼高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 28～29日：宮城県富谷高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
10月	2～3日：岩手県立北上翔南高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 7～8日：福島県立葵高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 ～12月：奨学支援事業 第1次(書面)選考、第2次(面接)選考を実施。 奨学生予定者及び奨学生予備予定者を選定・決定
11月	2～4日：「イングリッシュキャンプ@北海道」をコカ・コーラ環境ハウスにて福島県川俣町と 北海道夕張郡栗山町の中高生を対象に実施 29日：「い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト」後期助成を23団体に実施
12月	3～4日：福島県立郡山高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 14～15日：岩手県立宮古高等学校、宮城県古川高等学校で 「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 18日：宮城県名取北高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 23～24日：福島県立原町高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 26日：復興支援事業 北海道胆振東部地震で被災した3町(厚真町、安平町、むかわ町)に スクールバスなどの贈呈式を厚真町役場にて実施
2020年	
2月	12～16日：東海大学「冬季環境保全演習」をコカ・コーラ環境ハウスを拠点に実施 17～18日：熊本県立鹿本高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始

そのほか2019年度は、年間を通じて「い・ろ・は・す 水源保護活動」を実施。コカ・コーラシステム全社からの寄付金をもとに、当財団支部が連携して、全国各地で水資源の保護活動を行っている23団体へ助成しました。

2019年
全国23団体の活動を支援

コカ・コーラ環境教育賞

26年にわたり、国内の環境教育の推進に貢献し続けています。

1994年の設立から、今年で26周年。コカ・コーラ環境教育賞は、環境ボランティア活動の助成・支援を通じて、これまで国内の環境教育推進に大きく貢献してきました。2019年度も68団体の応募があり、その中から最優秀賞及び優秀賞を選出しました。

コカ・コーラ環境教育賞に
26年間で合計2,326団体が
参加しています。



第26回コカ・コーラ環境教育賞

主催：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
協力：読売新聞社
後援：文部科学省、環境省

2つの部門で募集を実施

【活動表彰部門】

小学生及び中学生とその指導者を対象に、地域社会に根ざした環境教育・環境保全・環境美化活動の実績を顕彰します。

【次世代支援部門】

高校生、高専生、大学生、大学院生及びそれら学生を活動主体とする非営利団体による環境保全・環境啓発・環境美化に寄与する新しい企画を評価し、具現化のための支援を行います。

スケジュール

4月23日
募集開始



7月11日
ノミネート15団体を決定

活動表彰部門41団体、次世代支援部門27団体の応募の中からノミネート15団体を決定



8月24日～25日
最終選考会及び表彰式

レベルの高い活動や企画が勢揃い。熱気あふれる最終選考会がコカ・コーラ環境ハウスで開催されました。

挨拶～祝辞

ノミネート団体の最終プレゼンテーションに先立ち、主催者を代表して佐々木理事長が開会の挨拶を行いました。また、さらに来賓を代表し、文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 課長補佐 下田力氏、栗山町長 佐々木学氏よりご祝辞をいただきました。



理事長 佐々木 康行



理事 高梨 圭二



文部科学省 下田 力 氏



栗山町長 佐々木 学 氏

表彰式

環境省 大臣官房 総合政策課 環境教育推進室室長 三木清香氏よりのご祝辞の後、両部門の最優秀賞・優秀賞の発表がありました。選考委員会による厳正な審査の結果、「活動表彰部門」最優秀賞は札幌市立屯田北中学校 科学部、「次世代支援部門」最優秀賞は青森県立名久井農業高等学校 環境研究班に決定しました。



選考委員長 小澤 紀美子



環境省 三木 清香 氏



最終選考会

参加団体のプレゼンテーション及び質疑応答

「活動表彰部門」ノミネート10団体、「次世代支援部門」ノミネート5団体、それぞれの代表が環境活動の実績や成果、企画を発表しました。質疑応答なども併せて行われ、熱気あふれる時間を共有しました。



参加者プレゼンテーション



質疑応答



最終選考会

2019年度より、文部科学大臣賞・環境大臣賞の贈賞を実施

過去25年にわたって開催されてきた「コカ・コーラ環境教育賞」は、日本国内における青少年への環境教育推進への貢献が評価され、2019年度より『文部科学大臣賞』『環境大臣賞』が贈賞されることとなりました。贈賞の対象は、最終選考会において、その活動が最も優秀と認められた団体です。選考の結果、『文部科学大臣賞』は「次世代支援部門」の青森県立名久井農業高等学校 環境研究班 に、「環境大臣賞」は「活動表彰部門」の札幌市立屯田北中学校 科学部に贈られました。



文部科学大臣賞 贈賞

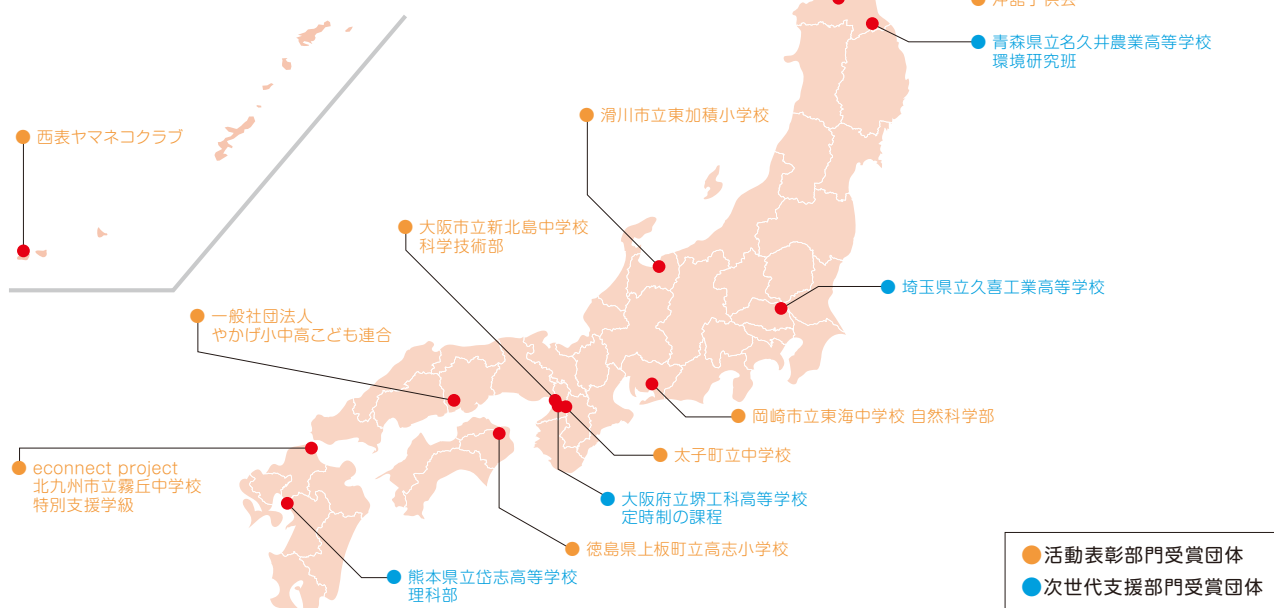


環境大臣賞 贈賞

第26回コカ・コーラ環境教育賞

受賞団体紹介

2019年度も日本全国からご応募をいただき、ノミネートされた15団体が最終選考会に参加しました。



◎最優秀賞

活動表彰部門 環境大臣賞

札幌市立屯田北中学校 科学部

活動地域：北海道札幌市

主な活動内容：

絶滅危惧種であるエゾホトケドジョウの保護活動

エゾホトケドジョウの生態を知ることで、その保護活動を継続している。また、学校近隣の調査や河川の水質調査、生物調査、屯田防風林のゴミ拾い活動による希少魚種の保護活動も実施。



次世代支援部門 文部科学大臣賞

青森県立名久井農業高等学校 環境研究班

活動地域：青森県三戸郡

プロジェクト名：視点は世界～開発途上国の環境汚染に立ち向かえ～

主な活動内容：近隣の市町村役場や地域住民などの支援を受けつつ、開発途上国の環境問題解決に貢献できる技術開発に取り組んでいる。昨年度は、肥料が湖沼に流入することで発生する水質汚染を植物で浄化する技術を開発し、国際大会や会議で発表するなど積極的に世界に発信。今年度は、農薬の飛散抑制技術の開発に取り組み、界面活性剤を用いた実証実験を行っている。



◎優秀賞

活動表彰部門

沖舘子供会

活動地域：青森県平川市

主な活動内容：地域全体の水環境の保護や環境美化活動

環境保護を啓発するための看板設置、町内のゴミ拾いと小学校が行う資源回収への協力などを実施。地域全体の環境保全意識の高揚を図る。



岡崎市立東海中学校 自然科学部

活動地域：愛知県岡崎市

主な活動内容：学区内に生息する絶滅危惧種ⅡB種「カワバタモロコ」の保護繁殖活動

学校に隣接する土地に絶滅危惧ⅡB種「カワバタモロコ」専用の池を作り、放流。繁殖活動まで行っている。こうした活動は28年目を迎える。



太子町立中学校

活動地域：大阪府南河内郡

主な活動内容：歴史的遺産と豊かな自然を守り地域発展に貢献

聖徳太子の御廟など数多い日本遺産と、自然に恵まれた太子町。町の環境保全はもとより、自然観察会や水族館づくりを開催し地域発展にも貢献。



徳島県上板町立高志小学校

活動地域：徳島県板野郡

主な活動内容：町の自然と伝統産業の結びつきを体験学習

吉野川の水質と養蚕業の関係性を体験的に学び、調理実習を行うなどの活動を展開。今後は町の伝統産業である藍染めをICTの活用で全国に発信していく。



西表ヤマネクラブ

活動地域：沖縄県八重山郡

主な活動内容：西表島をもっと知りたい良くしたいをテーマに

毎年メンバーの行いたい活動を実施。ホテルの観察や水質調査、サバイバルキャンプを経て毎年の振り返りを壁新聞にし、発表している。



次世代支援部門

市立札幌旭丘高等学校 生物部

活動地域：北海道札幌市

プロジェクト名：地球温暖化をトンボで見える化する～地球温暖化の恐ろしさを伝えるために～

主な活動内容：トンボ相の種類構成と経年変化を7年間調査し、地球温暖化の影響でトンボ相の多様性指数が北方系種よりも南方系種の方が高くなっていることが判明。研究成果は地元の河川環境の改善などに活用されている。



埼玉県立久喜工業高等学校

活動地域：埼玉県久喜市

プロジェクト名：液体燃料電池の研究

主な活動内容：循環型社会に対応する次世代エネルギーのひとつとして、植物由来のバイオエタノールを使った燃料電池の作成を行うと同時に、各種糖類水溶液の他、ジュースや炭酸飲料の製品での電気の取り出しを行っている。



滑川市立東加積小学校

活動地域：富山県滑川市

主な活動内容：周辺の緑豊かな自然環境を守る活動を36年間継続

ホテルの人工飼育と幼虫の放流、淡水魚の飼育・研究などを通して、自然を大切にすする心、地元を愛する心を育み、成果を上げている。



大阪市立新北島中学校 科学技術部

活動地域：大阪府大阪市

主な活動内容：大和川の水質調査とゴミ調査を定期的実施

中学校の近くを流れる大和川の観測を8年間継続的に実施している。先輩が後輩に測定方法を教えることにより、調査技術も高めている。



一般社団法人 やかげ小中高こども連合

活動地域：岡山県小田郡

主な活動内容：地域の発展・充実・復興を目的に主体的に活動

町と町内の学校と協働で「ゴミ視察ツアー」や「自然遊びDAY」を開催。また、2018年の西日本豪雨での災害体験を伝える活動も行っている。



econnect project 北九州市立霧丘中学校 特別支援学級

活動地域：福岡県北九州市

主な活動内容：ecoをテーマに様々な人と繋がるプロジェクト

「社会に貢献できる人を目指す」を目標に、特別支援学級の生徒が国際交流や地域社会などの機関と連携をとり、協働して課題に取り組んでいる。



大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

活動地域：大阪府堺市

プロジェクト名：美しい地球を次世代に～エコキャンドル・ナイトで環境啓発～

主な活動内容：商店街との協働で地域一帯の電気を消し、廃油を利用したエコキャンドルを楽しむイベントを小・中学生を招待して実施。ペットボトルを再利用したキャンドルホルダーを作成してもらうことで環境意識を高める。



熊本県立岱志高等学校 理科部

活動地域：熊本県荒尾市

プロジェクト名：カニの胃袋から、海洋プラスチックゴミの問題を考える

主な活動内容：国際的に重要な湿地に登録されている荒尾干潟に隣接する、塩性湿地に生息している絶滅危惧類のアリアケガニなどの胃袋から海洋ゴミであるマイクロプラスチックを調べ、環境保全とその啓発に繋げる。



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

北海道夕張郡栗山町の廃校を宿泊可能な施設として再生した「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、北海道夕張郡栗山町、地元のNPO法人雨煙別学校と公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団とが連携して運営し、教育の機会を提供して10年が経ちます。自然環境や農業環境を活かした体験型の環境教育プログラムを構築・展開し、全国の次世代を担う青少年の育成の場とすることを目指します。

NPO法人
雨煙別学校

栗山町

公益財団法人
コカ・コーラ
教育・環境財団

グランドオープン以来、
日本全国のみならず、
世界中から6万人以上が
来場しています。



体験型の環境プログラムの拠点として、多くの企業、団体、学校が利用しています。

活動紹介①

イングリッシュキャンプ @北海道

2019年11月2日(土)～4日(月・祝)

東日本大震災の被災地、福島県川俣町と栗山町の中高校生25人を対象に、英語のコミュニケーション能力を向上させる3日間の研修プログラムを開催しました。中学生はフィリピン出身のジェラルド・カンデレリアさん、高校生はカナダ出身のフィリップ・マーテルさんが講師を務めてくれました。

東海大学の学生がボランティアとして参加

2017年度の英語コミュニケーションスキル研修プログラムに、福島県立あさか開成高等学校の学生として参加した我妻史人さんがボランティアとして、司会や研修のサポートなどを行ってくれました。

我妻さん からの メッセージ

研修では1クラス10人前後ということもあり、講師の先生も質の高い授業を提供できたと思います。カリキュラムも英語の音楽やロールプレイを通じて楽しく英語を学べるようになっており、素晴らしいと思いました。英語の勉強だけでなく、北海道の自然の中で活動したり、ジンギスカンを食べたり、北海道の学生と交流できるなど普通なら決してできない体験ができるこの研修は、今後も続けてほしいと思います。私もボランティアとして、とてもいい経験ができました。今後も機会があればぜひ参加させていただきたいです。



集合写真



外国人講師と会話

全国の次世代リーダーが集う学び舎に

栗山町長 佐々木 学氏

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団の多大なご支援により再生された本施設は、「人と自然が共生するまちづくり」を進める本町が誇る財産であり、各学校の教育課程などを通じ、全国各地の青少年が自然体験プログラムを利用され、また、文化・スポーツなど幅広い分野における都市農村交流の拠点としても活用されています。

この国の将来を担う子どもたちが、本町の官民協働による自然・里山再生活動などから学び、相互に交流され、各地域の次世代リーダーとして成長されることを心から願っております。



社会で活躍できる人材の育成を

栗山町教育委員会 教育長 南條 宏氏

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団のご支援により再生した「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」も10年以上経過し、今では体験型宿泊施設として町内の子どもたちはもとより全国各地から多くの方が訪れ、自然体験など様々なプログラムに活用されています。また、栗山町が進める「ふるさと教育」の拠点施設として、今ではなくてはならない施設となっています。今後も次代を担う子どもたちが、「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」での活動により、何事にもたくましく挑戦し、社会で活躍できる人材へと成長することを願っています。



活動紹介②

コカ・コーラ環境フォーラム

2019年8月23日(金)～25日(日)

「第26回コカ・コーラ環境教育賞」受賞者と指導者、地元栗山町、札幌市内の一般参加者を対象に、自然体験プログラムなどを実施。栗山町教育委員会の協力のもと、大学生〇人がボランティアスタッフとして運営をサポートしました。

8月23日 オリエンテーション

壁新聞による活動紹介 と自己紹介



夕食会

北海道や栗山町の食材による夕食会。参加者は、用意された「名刺」交換などで交流を深めた。



8月24日 体験学習

ハサンベツとオオムラサキ館での体験学習

環境教育賞最終選考会終了後、午後からハサンベツ里山で、環境保護への取り組みや植生、オオムラサキ館では、色鮮やかな蝶の標本のほか、魚・昆虫・蛇など豊富な展示から学習した。



大学生による「水の授業」を実施

北海道コカ・コーラボトリング社の水資源保護への取り組みのほか、硬水と軟水の飲み比べや大学生によるゲームやクイズで「水」について学んだ。



8月25日

表彰式・ラップアップ

表彰式後に、3日間の体験、他の団体の活動から学んだこと、この体験をそれぞれの地元でどのように活かしていきたいかを発表した。



大学ネットワーク

「環境マインドを持った次世代のリーダー」育成を目指し、コカ・コーラ環境ハウスを舞台に、これまで東京学芸大学、東海大学、東京大学、慶應義塾大学他のフィールドワークを中心とした環境・教育プログラム支援活動を実施しています。



東海大学

冬季環境保全演習

2020年2月12日(水)～16日(日)

東海大学の生徒が「栗山町のPR動画の作成」をテーマに演習を実施。コカ・コーラ札幌工場の見学やハサンベツ里山での自然観察や越冬野菜収穫栗山の歴史、地形、自然などの体験学習を通して、栗山町の魅力の伝え方について発表しました。



東京学芸大学環境教育研究センター 水辺の学びデザインプロジェクト

2019年8月29日(木)～30日(金)

水をテーマにした趣味的の高い目的型ツアーの企画・体験・発信について、学生が取り組む研修合宿を実施。学部も学年も異なる12人がハサンベツ里山を訪れ、夕張川や湿原などの再生活動について学びました。



大学生がボランティアスタッフとして運営をサポート

コカ・コーラ環境フォーラム

東京学芸大・東海大学大学院・札幌東海大の学生や北海道の大学生が「コカ・コーラ環境フォーラム」のボランティアとして参加。「コカ・コーラ環境教育賞」の司会や進行のアシストも含め、幅広くサポートしてくれました。



青少年に対する教育支援

コカ・コーラの奨学支援事業は、1966年に開始しました。コカ・コーラが日本で事業を開始して11年目にあたり、当時、日本国内では大学進学率が平均して25%にも満たない時代でした。1970年からは全国のボトラー各社と日本コカ・コーラが共同で、毎年全国から推薦された成績優秀な高校生に大学在学期間中、返済及び将来の就職等についても義務がない奨学金を授与しています。この事業は向上心あふれる学生に、教育の機会を提供するものとして50年間以上継続して実施しています。今後も国際社会が求める青少年の育成、また地域社会を支える人材の育成に貢献することを目的として、人物・学力ともに優れ、かつ向上心に燃えながら経済的な理由により大学への進学が困難な事情にある高校生の進学を支援してまいります。

53年間で合計2,377人の卒業生を支援しています。

2019年度は奨学生51人を採用し、本人及び入学する大学長、出身高等学校長へ決定を通知しました。次年度の募集は、告知ポスター等にて、財団支部を通じて行います。広報活動として「鳳鳴」を制作し、財団役員、奨学生、卒業生、各支部へ配布しました。



奨学生の声

人に寄り添う仕事を目指して、
知識も心も磨く4年間に。

本部採用：金城 万星愛 (きんじょう まりあ)
／名桜大学 国際学部

奨学生に選ばれたことをとても嬉しく思っています。進学先での生活が不安でしたが、奨学支援のおかげで、勉学に使う時間を増やすことができます。支えてくださっている皆様の期待に応えられるよう、人一倍頑張って充実した大学生活を送りたいと思います。そして、知識だけでなくEQ(心の知能指数)も身につけ、将来は私もコカ・コーラさんのように人に寄り添う思いやりのある仕事をしたいです。大学でたくさん学んで将来立派な社会人になります。学校での証書授与の際は、皆様よりあたたかい励ましのお言葉をいただき、感謝してもしきれないほどです。これからも奨学生として恥じないよう精進していきます。本当にありがとうございました。

植物病理学を研究し、
沖縄の農業を支えていきたい。

支部採用：仲村 実優 (なかむら みゆ)
／琉球大学 農学部

私は高校3年間、学校の部活動であるバイオテクノロジー部でプロジェクト活動に取り組んできました。2年生の時、コカ・コーラ環境教育賞のフォーラムに参加して最優秀賞を受賞できたことをきっかけに、このプロジェクト活動で身につけた知識や技術を地域の農業のために活かしていきたいという思いが強くなりました。今後もこの気持ちを忘れず、将来は植物病理学の研究者として沖縄県の農業を支えていきたいと思っています。大学では研究活動に励み、沖縄県の農業ではどのような取り組みが求められているのかを知ることが必要です。自分の興味のある分野を最大限に活かしていくために基礎的な勉強にも力を入れていきます。私を支えてくださった方々の期待を裏切らないよう、充実した大学生活を過ごしていきたいと思っています。

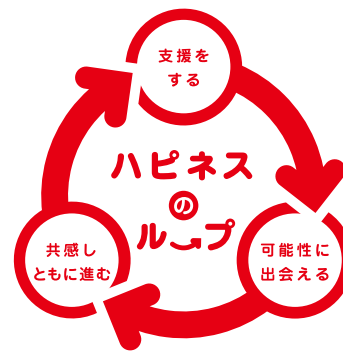
復興支援事業は第2ステージへ

2011年に当財団に設立された「コカ・コーラ復興支援基金」では、震災などによる被災地の復興支援を行うために、さまざまな事業を行っています。

2017年度からは次なるステージとして、東日本大震災で被災した3県、さらに熊本地震で被災した2県の高校生を対象に「地元の魅力を海外の人々に発信できる人材育成」を目指し、外国人スタッフや留学生のサポートを受けながら英語コミュニケーションスキルの向上を目指すプログラムを実施しています。

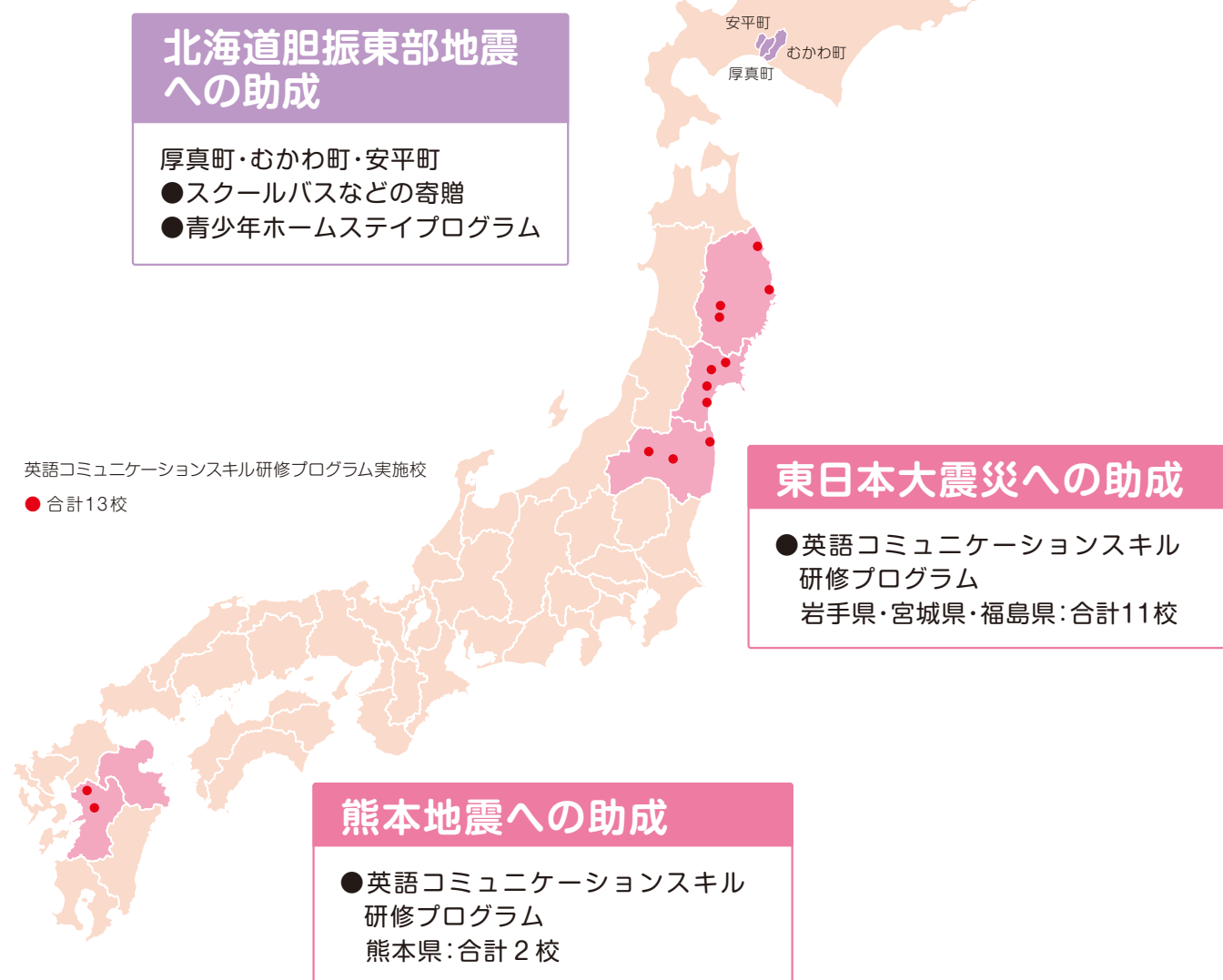
また、北海道胆振東部地震で被災した3町を対象に、青少年育成・教育事業の助成を実施しています。

つなげよう、ハピネス



2011年から始まった復興支援活動に **約21,000人** が参加しています。

被災地における青少年の教育支援や生活復興を目指し、英語コミュニケーションスキル研修プログラムや、スクールバスの寄贈を中心に活動を展開



被災地の高校生を対象に2017年度より英語コミュニケーションスキル研修プログラムを実施

地元の魅力を海外の人々に発信できる人材の育成を目指し、地方自治体や教育委員会、地元のNPOや大学、企業といった協働パートナーと連携し、実施しています。2019年度は、合計4県13校、591名の高校生が参加し、外国人講師や留学生の指導のもと、英語での効果的なプレゼンテーション方法や自分のキャリアについて学習しました。

実施校の詳細はP13参照

プログラムの概要

- 1 ファシリテーターと留学生による体験型プログラム(2日間)**
 - 5～6人のグループに分かれてプログラムを実施
 - 英語を用いたコミュニケーションと課題への取り組みを発表
 - アンケートによるフィードバック
- 2 オリジナル教材による自己学習プログラム(3～6ヵ月間)**
 - 継続して自己研鑽するためのツールとして学習教材を提供
 - 自身や学校、地元、県内の観光地などを英語で紹介できるように自己学習
 - 主催者側にて課題を採点し、フィードバック
 - 実地研修を行う一定期間前にクラスで準備授業を実施(学校主導)
- 3 現地近郊観光地、または東京での実地研修(1日)**
 - 体験型プログラム、自己学習の成果を発揮する場を提供

プログラム修了証を授与

これまでの主な復興支援活動

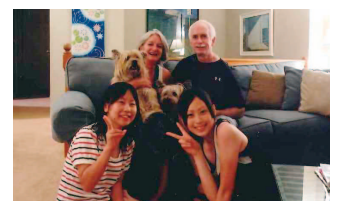
太陽光発電・蓄電設備の設置助成

岩手・宮城・福島県の公立小・中学校を対象に実施。同時に、子どもたちへクリーンエネルギーを通じた環境教育と、地域の緊急避難場所への防災対応機能の整備を支援しました。



米国・英国でのホームステイ研修

岩手・宮城・福島県の高校生・中学生を対象に、グローバルな視野を持つ人材の育成及び教育支援の一環として、海外でのホームステイ研修プログラムを提供しました。



◎その他、スクールバスの寄贈、ヤングアメリカンズ東北ツアー支援などを実施。